RL78/G14, H8/36109 グループ

H8 から RL78 への移行ガイド: 低消費電力モード

要旨

本アプリケーションノートでは，H8/36109 の低消費電力モードから RL78/G14 (100 ピン製品) のスタンバイ機能への移行について説明します。

対象デバイス

RL78/G14, H8/36109

本アプリケーションノートを他のマイコンへ適用する場合，そのマイコンの仕様にあわせて変更し，十分評価してください。

目次

1.　低消費電力モードの機能 3

2.　動作モードの相違点 6
2.1　サブアクティブモードの相違点 6
2.2　スリープモードの相違点 7
2.3　サブスリープモードの相違点 7
2.4　スタンバイモードの相違点 8

3.　レジスタの対比 9

4.　スタンバイ機能のサンプルコード 11

5.　参考ドキュメント 11

改訂記録 12

1. 低消費電力モードの機能

表 1.1 に H8/36109 の低消費電力モードを示し，表 1.2 に RL78/G14 のスタンバイ機能を示します。

表 1.1　H8/36109 の低消費電力モード

機能	説明
サブアクティブモード	CPU および内蔵周辺モジュールがサブクロックで動作します。サブクロックの周波数は φw/2，φw/4，φw/8 の中から選択できます。
スリープモード	CPU が動作を停止し，内蔵周辺モジュールがシステムクロックで動作します。
サブスリープモード	CPU が動作を停止し，内蔵周辺モジュールがサブクロックで動作します。
スタンバイモード	CPU およびすべての内蔵周辺モジュールが動作を停止します。ただし，RTC は時計用タイムベースの機能が選択されているときは動作します。

表 1.2　RL78/G14 のスタンバイ機能

機能	説明
通常動作モード (サブシステム・クロック)(注 1)	サブシステム・クロックが発振している状態で，CKC レジスタの CSS ビットへ”1”を書き込むと，CPU クロックはサブシステム・クロックに切り替わり，通常動作モードを継続します。
HALT モード	HALT 命令の実行により，HALT モードとなります。HALT モードは，CPU の動作クロックを停止させるモードです。HALT モード設定前に高速システム・クロック発振回路，高速オンチップ・オシレータ，サブシステム・クロック発振回路が動作している場合，それぞれのクロックは発振を継続します。このモードでは，STOP モードほどの動作電流の低減はできませんが，割り込み要求により，すぐに処理を再開したい場合や，頻繁に間欠動作をさせたい場合に有効です。
STOP モード	STOP 命令の実行により，STOP モードとなります。STOP モードは，高速システム・クロック発振回路，高速オンチップ・オシレータを停止させ，システム全体が停止するモードです。CPU の動作電流を，大幅に低減することができます。 さらに，割り込み要求によって解除できるため，間欠動作も可能です。ただし，X1 クロックの場合，STOP モード解除時に発振安定時間確保のためのウエイト時間がとられるため，割り込み要求によって，すぐに処理を開始しなければならないときには HALT モードを選択してください。
SNOOZE モード	CSIp, UARTq のデータ受信，タイマ・トリガ信号 (割り込み要求信号 (INTRTC/INTIT) または ELC イベント入力)による A/D 変換要求，DTC 起動要因により，STOP モードを解除し，CPU を動作させることなく CSIp, UARTq のデータ受信，A/D 変換，DTC 動作を行います。CPU／周辺ハードウエア・クロック(f_{CLK})に高速オンチップ・オシレータが選択されているときのみ設定可能です。

注 1.　RL78/G14 は，40 ピン以上の製品でサブシステム・クロック発振回路を搭載しています。

注 2.　XT1 発振回路は XT1, XT2 端子に接続された水晶振動子（32.768kHz (TYP.)）によって発振します。

備考 1.　RL78/G14 の場合，
30-64 ピン製品： p = 00; q = 0
80-100 ピン製品： p = 00, 20; q = 0, 2

備考 2.　製品によって搭載している機能が異なります。詳細については， 各製品のユーザーズマニュアル ハードウェア編を参照してください。

H8/36109 の低消費電力モードは，サブアクティブモード，スリープモード，サブスリープモード，スタンバイモードの 4 つのモードがあります。

図 1.1 に H8/36109 の低消費電力モードの状態遷移図を示します。

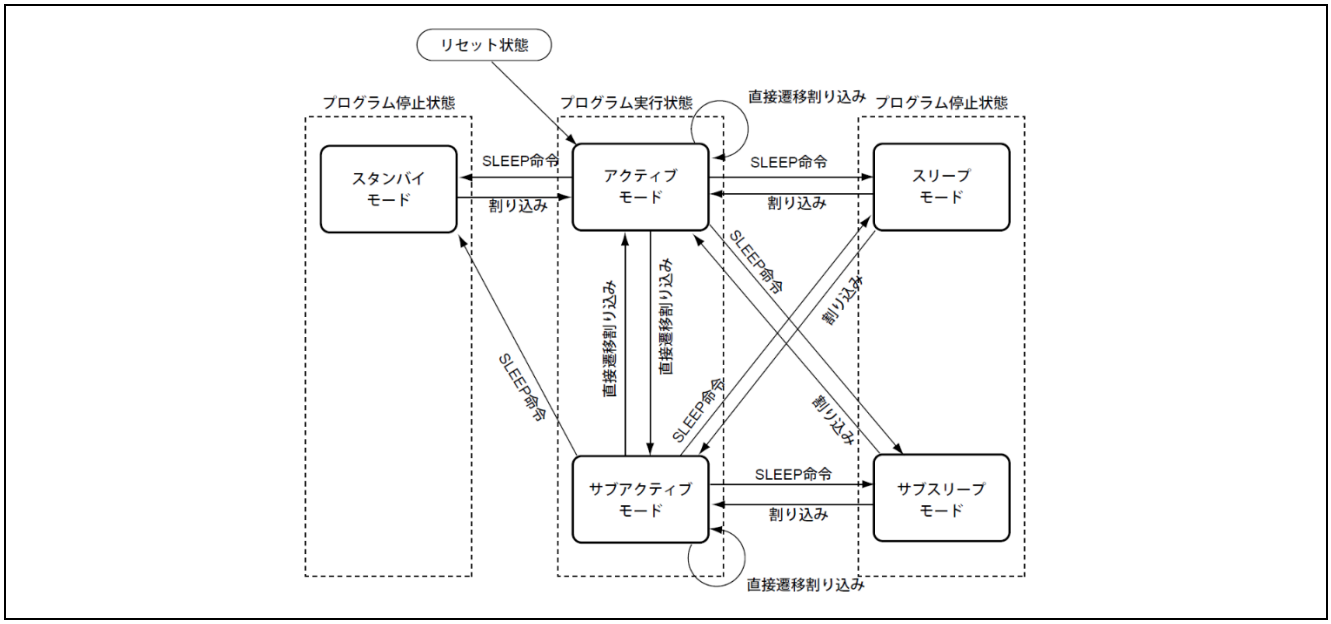

図 1.1　H8/36109 の低消費電力モードの状態遷移図

RL78/G14 に搭載しているスタンバイ機能は，HALT モード，STOP モード，SNOOZE モードの 3 つのモードがあります。

図 1.2 に RL78/G14 のスタンバイ機能の状態遷移図を示します。

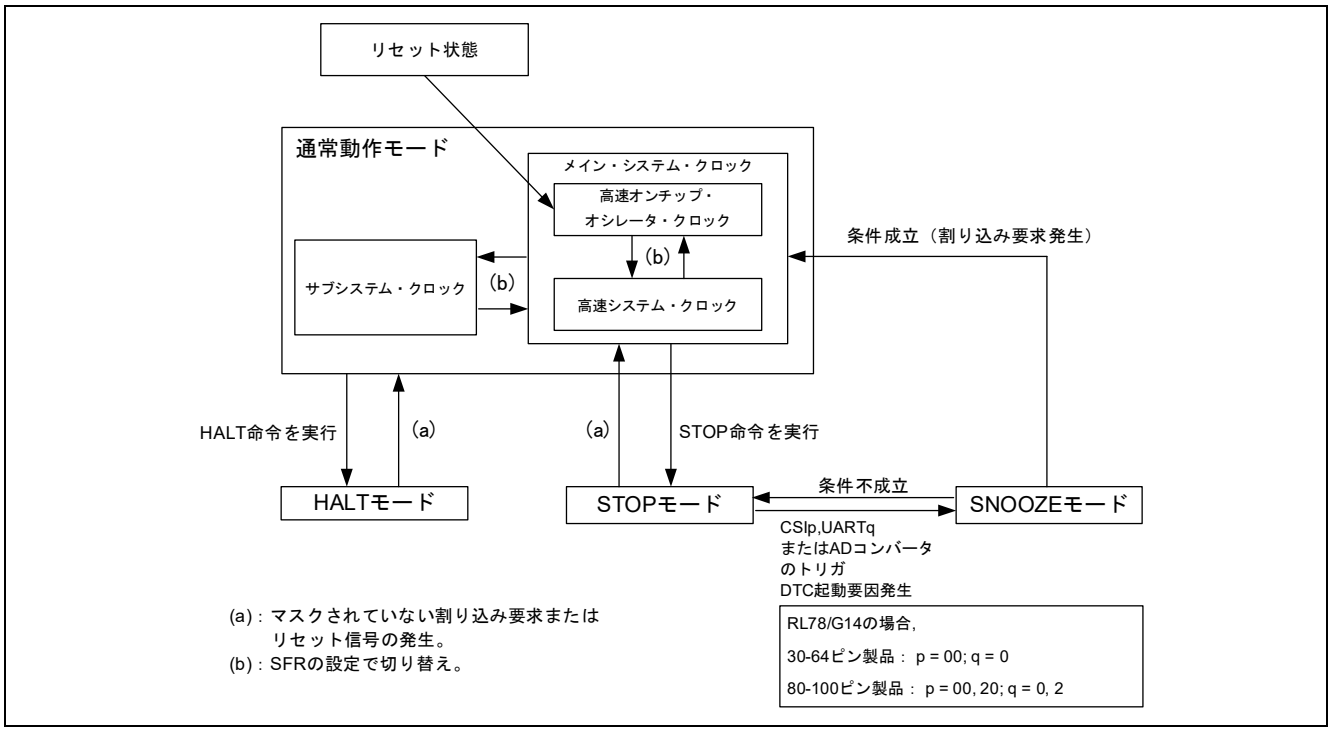

図 1.2　RL78/G14 のスタンバイ機能の状態遷移図

表 1.3 に各動作モードの対応表を示します。

表 1.3　動作モード対応表

H8/36109 動作モード	RL78/G14 動作モード
アクティブモード	通常動作モード (メイン・システム・クロック)
サブアクティブモード	通常動作モード (サブシステム・クロック) (注 1)
スリープモード	HALT モード (メイン・システム・クロック)
サブスリープモード	HALT モード (サブシステム・クロック)
スタンバイモード	STOP モード
なし	SNOOZE モード(注 2)

注 1.　RL78/G14 は，40 ピン以上の製品でサブシステム・クロック発振回路を搭載しています。

注 2.　CSIp または，A/D コンバータまたは，DTC が設定可能です。UARTq はオプションバイト 000C2H の FRQSEL4 が 0 の時にのみ設定可能です。また，設定前の CPU クロックが，高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合のみ設定可能です。

備考 1.　RL78/G14 の場合，
30-64 ピン製品：　p = 00; q = 0

80-100 ピン製品：　p = 00, 20; q = 0, 2

備考 2.　製品によって搭載している機能が異なります。詳細については，　各製品のユーザーズマニュアル ハードウェア編を参照してください。

2. 動作モードの相違点

2.1 サブアクティブモードの相違点

表 2.1 に H8/36109 のサブアクティブモードと RL78/G14 の通常動作モード(サブシステム・クロック)の相違点を示します。

H8/36109 は，SLEEP 命令実行 (直接遷移) やアクティブモードやスリープモードサブスリープモードからの割り込みによる復帰でサブアクティブモードへ遷移します。

RL78/G14 は，CKC レジスタの CSS ビットに”1”を書き込むことで通常動作モード (サブシステム・クロック) へ遷移します。

表 2.1　H8/36109 のサブアクティブモードとの相違点

項目	H8/36109 サブアクティブモード	RL78/G14 通常動作モード (サブシステム・クロック)
システムクロック発振器	停止	動作 / 停止の選択可能
サブクロック発振器	動作	動作(注 1)
CPU	動作	動作
RAM	動作	動作
I/O ポート	動作	動作
外部割り込み	動作	動作
周辺モジュール	動作，リセットまたは保持 (注 2)	動作 (注 3)
移行方法	- SLEEP 命令実行 (直接遷移) - 割り込みによる復帰先	CKC レジスタ CSS ビットへ”1”を書き込む

注 1.　RL78/G14 は，40 ピン以上の製品でサブシステム・クロック発振回路を搭載しています。

注 2.　H8/36109 の場合，

動作：　RTC (時計用タイムベース機能選択時),
リセット：タイマ V，SCI3，SCI3_2，SCI3_3，A/D 変換器
保持：上記以外の周辺モジュール

注 3.　RL78/G14 の場合，

動作：下記の動作禁止以外の周辺機能
動作禁止：　A/D コンバータ，シリアル・インタフェース IICA，高速 CRC

2.2　スリープモードの相違点

表 2.2 に H8/36109 のスリープモードと RL78/G14 の HALT モードの相違点を示します。

H8/36109 は，SLEEP 命令実行でスリープモードへ遷移します。

RL78/G14 は，HALT 命令実行で HALT モードへ遷移します。

表 2.2　H8/36109 のスリープモードとの相違点

項目	H8/36109 スリープモード	RL78/G14 HALT モード (メイン・システム・クロック)
システムクロック発振器	動作	HALT モード設定前の状態を継続
サブクロック発振器	動作	HALT モード設定前の状態を継続(注)
CPU	命令実行:停止，レジスタ:保持	命令実行:停止，レジスタ:保持
RAM	保持	保持 (DTC 実行時は動作可能)
I/O ポート	保持	HALT モード設定前の状態を保持
外部割り込み	動作	動作
周辺モジュール	動作	動作
移行方法	SLEEP 命令実行	HALT 命令実行

注. RL78/G14 は，40 ピン以上の製品でサブシステム・クロック発振回路を搭載しています。

2.3　サブスリープモードの相違点

表 2.3 に H8/36109 のサブスリープモードと RL78/G14 の HALT モード(サブシステム・クロック)の相違点を示します。

H8/36109 は，SLEEP 命令実行でスリープモードへ遷移します。

RL78/G14 は，HALT 命令実行で HALT モードへ遷移します。

表 2.3　H8/36109 のサブスリープモードとの相違点

項目	H8/36109 サブスリープモード	RL78/G14 HALT モード (サブシステム・クロック)
システムクロック発振器	停止	動作禁止
サブクロック発振器	動作	動作(注 1)
CPU	命令実行:停止，レジスタ:保持	命令実行:停止，レジスタ:保持
RAM	保持	保持 (DTC 実行時は動作可能)
I/O ポート	保持	HALT モード設定前の状態を保持
外部割り込み	動作	動作
周辺モジュール	保持またはリセット(注 2)	動作(注 3)
移行方法	SLEEP 命令実行	HALT 命令実行

注 1.　RL78/G14 は，40 ピン以上の製品でサブシステム・クロック発振回路を搭載しています。

注 2.　H8/36109 の場合，

動作：　RTC (時計用タイムベース機能選択時),
リセット：タイマ V，SCI3，SCI3_2，SCI3_3，A/D 変換器
保持：上記以外の周辺モジュール

注 3.　RL78/G14 の場合，

動作：下記の動作禁止以外の周辺機能
動作禁止：　A/D コンバータ，シリアル・インタフェース IICA，高速 CRC

2.4　スタンバイモードの相違点

表 2.4 に，H8/36109 のスタンバイモードと RL78/G14 の STOP モードの相違点を示します。

H8/36109 は，SLEEP 命令実行でスリープモードへ遷移します。

RL78/G14 は，STOP 命令実行で STOP モードへ遷移します。

表 2.4　H8/36109 のスタンバイモードとの相違点

項目	H8/36109 スタンバイモード	RL78/G14 STOP モード
システムクロック発振器	停止	停止
サブクロック発振器	動作	STOP モード設定前の状態を継続(注 1)
CPU	命令実行:停止，レジスタ:保持	停止
RAM	保持	保持
I/O ポート	レジスタ: 保持 出力: ハイインピーダンス	STOP モード設定前の状態を保持
外部割り込み	動作	動作
周辺モジュール	保持またはリセット(注 2)	注 3
移行方法	SLEEP 命令実行	STOP 命令実行

注 1.　RL78/G14 は，40 ピン以上の製品でサブシステム・クロック発振回路を搭載しています。

注 2.　H8/36109 の場合，

動作：　RTC (時計用タイムベース機能選択時),
リセット：タイマ V，SCI3，SCI3_2，SCI3_3，A/D 変換器
保持：上記以外の周辺モジュール

注 3.　RL78/G14 の場合，

動作：
リアルタイム・クロック(RTC) ，12 ビット・インターバル・タイマ，ウォッチドッグ・タイマ (動作 / 停止の選択可)，タイマ RJ，クロック出力／ブザー出力， D/A コンバータ， ELC，パワーオン・リセット回路，電圧検出回路，キー割り込み

一部動作：
A/D コンバータ (SNOOZE モード使用時は動作可)，コンパレータ (デジタルフィルタ未使用かつ外部からのリファレンス電圧供給時は動作可)，シリアル・アレイ・ユニット (SNOOZE モード使用時は動作可)，シリアル・インタフェース IICA (アドレス一致による起動可)，DTC (起動要因受付可)

動作禁止：　タイマ・アレイ・ユニット，タイマ RD，タイマ RG

動作停止：　CRC 演算機能，不正メモリ・アクセス検出機能，RAM ガード機能，SFR ガード機能

3. レジスタの対比

表 3.1 と に H8/36109 と RL78/G14 の低消費電力モードのレジスタ対比表を示します。

表 3.1　レジスタの対比 (1/2)

設定項目	H8/36109	RL78/G14
システムコントロールレジスタ	SYSCR1 レジスタ SYSCR2 レジスタ SYSCR3 レジスタ	なし
ソフトウェアスタンバイ	SYSCR1 レジスタ SSBY ビット	なし
スタンバイタイマセレクト	SYSCR1 レジスタ STS2 - STS0 ビット	OSTS レジスタ OSTS2 - OSTS0 ビット
ノイズ除去サンプリング 周波数選択	SYSCR1 レジスタ NESEL ビット	なし
スリープモード選択	SYSCR2 レジスタ SMSEL ビット	なし
ロースピードオンフラグ	SYSCR2 レジスタ LSON ビット	なし
ダイレクトトランスファオンフラグ	SYSCR2 レジスタ DTON ビット	なし
アクティブモードクロックセレクト	SYSCR2 レジスタ MA2 - MA0 ビット	なし
サブアクティブモードクロックセレクト	SYSCR2 レジスタ SA1 ビット, SA0 ビット	なし
スタンバイタイマセレクト	SYSCR3 レジスタ STS3 ビット	OSTS レジスタ OSTS2 - OSTS0 ビット
モジュールスタンバイ コントロールレジスタ	MSTCR1 レジスタ MSTCR2 レジスタ MSTCR4 レジスタ	PER0 レジスタ PER1 レジスタ
IIC2 モジュールスタンバイ	MSTCR1 レジスタ MSTIIC ビット	PER0 レジスタ IICA1EN ビット IICA0EN ビット
SCI3 モジュールスタンバイ	MSTCR1 レジスタ MSTS3 ビット	PER0 レジスタ SAU1EN ビット SAU0EN ビット
ウォッチドッグタイマ モジュールスタンバイ	MSTCR1 レジスタ MSTWD ビット	なし
タイマ V モジュールスタンバイ	MSTCR1 レジスタ MSTTV ビット	PER0 レジスタ TAU1EN ビット TAU0EN ビット
RTC モジュールスタンバイ	MSTCR1 レジスタ MSTTA ビット	PER0 レジスタ RTCEN ビット

表 3.2　レジスタの対比 (2/2)

設定項目	H8/36109	RL78/G14
SCI3_2 モジュールスタンバイ	MSTCR2 レジスタ MSTS3_2 ビット	PER0 レジスタ SAU1EN ビット SAU0EN ビット
タイマ B1 モジュールスタンバイ	MSTCR2 レジスタ MSTTB1 ビット	PER0 レジスタ TAU1EN ビット TAU0EN ビット
PWM モジュールスタンバイ	MSTCR2 レジスタ MSTPWM ビット	PER0 レジスタ TAU1EN ビット TAU0EN ビット
タイマ RC モジュールスタンバイ	MSTCR4 レジスタ MSTTRC ビット	PER0 レジスタ TAU1EN ビット TAU0EN ビット
A/D 変換器モジュールスタンバイ	MSTCR4 レジスタ MSTAD ビット	PER0 レジスタ ADCEN ビット
タイマ RD_0 モジュールスタンバイ	MSTCR4 レジスタ MSTTRD0 ビット	PER1 レジスタ TRD0EN ビット
タイマ RD_1 モジュールスタンバイ	MSTCR4 レジスタ MSTTRD1 ビット	なし
D/A コンバータの入力クロック供給の制御	なし	PER1 レジスタ DACEN ビット
タイマ RG の入力クロック供給の制御	なし	PER1 レジスタ TRGEN ビット
コンパレータの入力クロック供給の制御	なし	PER1 レジスタ CMPEN ビット
DTC の入力クロック供給の制御	なし	PER1 レジスタ DTCEN ビット
タイマ RJ0 の入力クロック供給の制御	なし	PER1 レジスタ TRJ0EN ビット
サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ	なし	OSMC レジスタ
STOP モード時およびサブシステム・クロックで CPU 動作中の HALT モード時の設定	なし	OSMC レジスタ RTCLPC ビット
リアルタイム・クロック, 12 ビット・インターバル・タイマ, タイマ RJ の動作クロックの選択	なし	OSMC レジスタ WUTMMCK0 ビット

4. スタンバイ機能のサンプルコード

スタンバイ機能のサンプルコードを説明したアプリケーションノートを示します。

- RL78/G13 CPU クロックの切り替えとスタンバイ設定 (C 言語編) CC-RL (R01AN3128)
- RL78/G13 CPU クロックの切り替えとスタンバイ設定 (アセンブリ言語編) CC-RL (R01AN2912)

5. 参考ドキュメント

ユーザーズマニュアル

- RL78/G14 ユーザーズマニュアル ハードウェア編 (R01UH0186)
- H8/36109 グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 (R01UH0294)

(最新版をルネサスエレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート

(最新の情報をルネサスエレクトロニクスホームページから入手してください。)

学習ガイド

- コード生成プラグイン学習ガイド (R20UT3230)
- RL78/G13 コード生成の活用例(サンプルプログラム) (R20AN0399)

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2020.09.04	-	初版発行

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策
   CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。
2. 電源投入時の処置
   電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。
3. 電源オフ時における入力信号
   当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。
4. 未使用端子の処理
   未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。
5. クロックについて
   リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。
6. 入力端子の印加波形
   入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、V_{IL}（Max.）から V_{IH}（Min.）までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、V_{IL}（Max.）から V_{IH}（Min.）までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。
7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止
   リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。
8. 製品間の相違について
   型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違うと、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ幅射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等
   当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。
7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア／ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因しまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア／ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注１において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1　2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

© 2020 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.